

# なみなみ通信

福岡県水産海洋技術センター情報誌

なみなみ通信は、水産海洋技術センターからの情報を、漁業者や県民の方にお知らせする情報誌です。

V O L . 6 9

発行 / 平成 30 年 5 月



福岡県漁業調査取締船「げんかい」

## 調査情報

- ・海況情報 ..... 2
- ・有明海のノリ養殖 4年連続で生産額150億円超え ..... 2
- ・平成29年度 カキ養殖の生産結果 ..... 3

## 研究情報

- ・サワラの鮮度保持技術の改善による単価の向上効果 ..... 3

## なみなみニュース

- ・第15回シーフードショー大阪へ県産水産物を出品 ..... 4
- ・福岡県漁業調査取締船「げんかい」竣工 ..... 5
- ・内水面漁業の資源の維持・回復に向けて ..... 5
- ・食育・地産地消セミナー 開催 ..... 6

## 研究員紹介

- ・研究部 主任技師 林田 宜之 ..... 6

## 普及だより

- ・「糸島産ふともずく」がフード・アクション・ニッポンアワード2017で受賞10製品に選定 ..... 7
- ・有明海区研究連合会 高口 悟さん  
第23回全国青年・女性漁業者交流大会で水産庁長官賞を受賞 ..... 7

- 人事異動 ..... 8

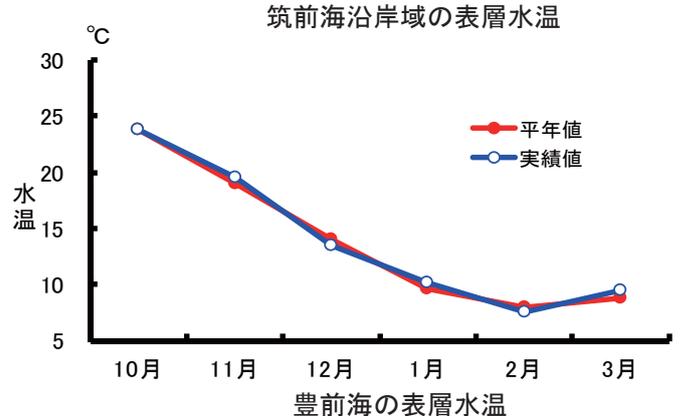
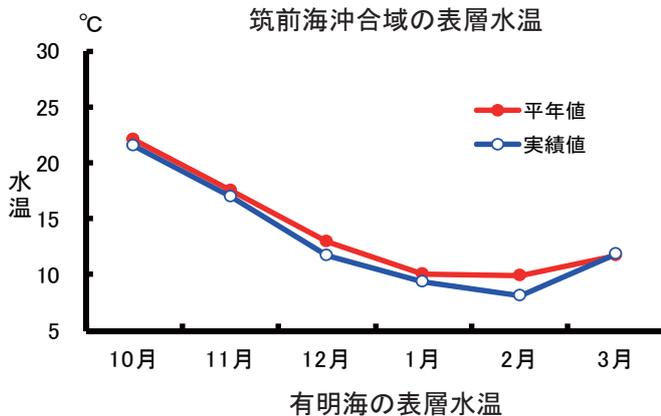
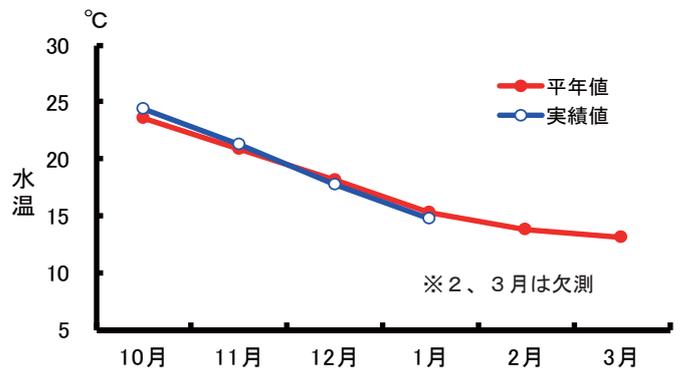
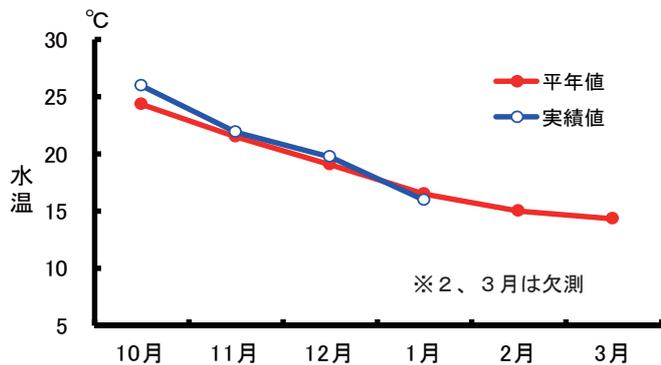
# 調査情報

## 海況情報

10～3月の表層水温は、筑前海の沖合域では、10月がかなり高め、11月と12月はやや高めでしたが、1月は平年並みでした（2、3月欠測）。沿岸域では、10月がやや高めでしたが、11月と12月は平年並みとなり、1月はやや低めでした（2、3月欠測）。

有明海では、10月と11月がやや低め、12月はかなり低め、1月はやや低め、2月は甚だ低めでしたが、3月は平年並みでした。

豊前海では、10月から2月まで平年並みでしたが、3月はやや高めでした。



## 有明海のノリ養殖 4年連続で生産額 150億円超え

平成29年度漁期の有明海におけるノリ養殖は、生産枚数が12.9億枚（平年比99%）、生産額は165億円（平年比110%）となり、4年連続で150億円を超えました。

今漁期は、10月21日の採苗日に台風が接近し、強風の影響で海上作業は困難を極めたものの、水温が適温まで低下していたため、ノリの胞子は十分に放出され、育苗期まで順調に生育しました。

11月中旬以降の秋芽網生産期に入っても、例年に比べて水温が低めに推移したことに加え、県の指導のもと、各漁業者が適切な養殖管理を行ったことから、病害のまん延が抑えられ高品質なノリが生産されました。

冷凍網生産期は、寒波による低水温に伴い生長が鈍化し、2月中旬以降は栄養塩が低下するなど厳しい海況となりましたが、海況やノリの生育状況の把握に努め、養殖指導を強化した結果、高品質なノリが生産されました。

（有明海研究所）

## 平成 29年度 カキ養殖の生産結果

### 【豊前海区】

豊前海区のカキの生産量は約1,450トン（平年比112%）となりました。

クロダイの食害対策として豊前海研究所が開発した「束ね垂下」による養殖管理が行われたことから食害の被害が軽減され、さらに海況も良好に経過し、成長や身入りも良好に推移したため、平年を上回る結果となりました。

### 【筑前海区】

筑前海区の生産量は約465トン（平年比98%）となりました。地区別の生産量は、糸島地区が約372トンで最も多く、次いで福岡地区（唐泊、能古島、志賀島）の約57トンとなっており、両地区で全体の約9割を占めています。

カキ養殖は、漁場が港から近く、燃油使用量が少ない省エネ型漁業で、時化の影響も受けにくいことから冬季の収入源となっており、近年では、北九州や宗像地区においても養殖が開始されています。

（豊前海研究所、研究部）

## 研究情報

### サワラの鮮度保持技術の改善による単価の向上効果

センターでは、筑前海の重要魚種の一つであるサワラの付加価値向上のため、鮮度保持技術の改善試験を行いました。

サワラの高鮮度処理の特徴は、魚体の丁寧な取扱いと活け締め、血抜き、速やかな冷却・保冷です。作業時間は、慣行処理に比べ1尾当たり2分程度増加しますが、高鮮度処理によって慣行処理よりも身が硬く高鮮度な状態を維持でき、身割れの発生を少なくすることができます。

これらの結果をもとに、センターでは「サワラ高鮮度処理マニュアル」を作成し、現場への普及を進めています。

行程	内容
船上処理	身割れ防止のため、厚いマット上での取扱い
↓	
活け締め	身割れ防止のため、脊椎切断による即殺
↓	
血抜き	鮮度保持のため、エラ内の血管切断と海水洗い
↓	
冷却・保冷	鮮度保持のため、6時間以上の海水氷漬け
↓	
箱詰め	発砲容器の大型化と乾燥防止パッチの使用

サワラ高鮮度処理の特徴



高鮮度処理

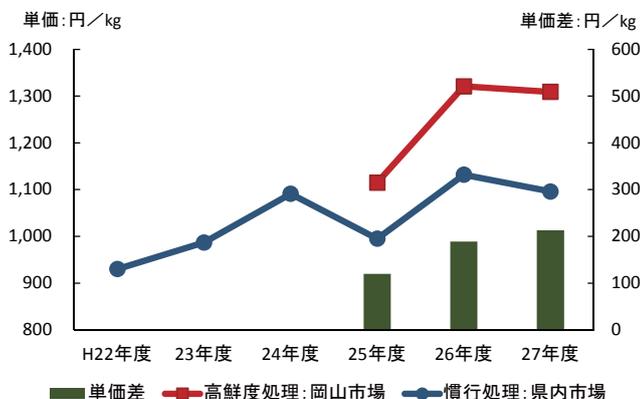


身割れ

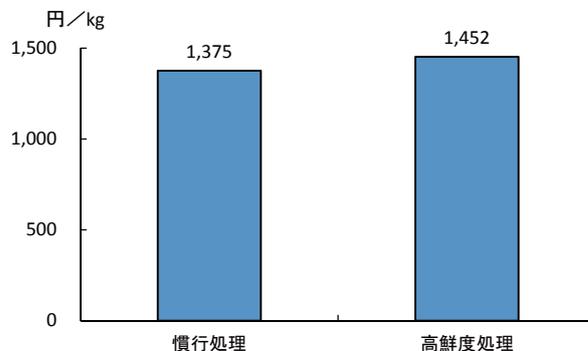
慣行処理

サワラの処理方法の違いによる品質の差

平成25年度から高鮮度処理したサワラを、サワラが高価格で取引される岡山市場に出荷したところ、慣行処理の県内市場出荷に比べ平均単価は、出荷1年目が1kgあたり120円高く、2年目が189円、3年目は213円と年ごとに単価差は拡大しました。さらに、平成28年度には高鮮度処理したサワラを県内市場に出荷した結果、慣行処理よりも77円高く取引されました。



鮮度処理方法別の市場単価



県内市場における鮮度処理方法別の市場単価

(研究部)

## なみなみニュース

### 第15回シーフードショー大阪へ県産水産物を出品

2月21日～22日の2日間、大阪市のアジア太平洋トレードセンターにて開催された第15回シーフードショー大阪に、福岡県として初めて、20品目の水産物を出品し、県産水産物のPRを行いました。会場には多数のバイヤーの来場があり、2日間で卸売、輸出、外食・中食業者等の80社以上のバイヤーと意見交換を行うことができました。

今後も、展示会や商談会の場を活用し、県産水産物のPR、販売促進に努めていきます。



シーフードショーの様子



出品された県産水産物

## 福岡県漁業調査取締船「げんかい」竣工

福岡県漁業調査取締船「げんかい」の新船が完成し、3月29日に福岡市西区のホテルマリノアリゾート福岡において、竣工披露式を行いました。

当日は、県議会議員、地元市長、漁業関係者など約70名の方々にご出席いただき、新船の見学会も併せて実施しました。

小川知事の挨拶では、「新船「げんかい」には、筑前海の多様な水産資源を守り、漁業の秩序を維持する役割、筑前海の様々な漁業を支援する役割がありますが、その優れた耐波性、高速性能を活かし、取締りの強化、調査の効率化を図ってまいります。このほか、災害発生時の島民の皆様の避難、漁船の遭難事故、油の流出事故など、万が一の際にも、迅速に対応させていただきます。」と述べました。

今後も、引き続き漁協の皆様や水産庁など関係機関の皆様と一体となって、筑前海の漁業の振興・発展に取り組んでいきます。

### 新船「げんかい」の概要

船 質	軽合金（アルミ）製	
主要寸法	長さ	29.3メートル
	幅	5.5メートル
	総トン数	67トン
巡航速力	約32ノット（時速約59Km）	



新船「げんかい」での記念撮影

## 内水面漁業の資源の維持・回復に向けて

昨年7月の九州北部豪雨では、土砂の流入によるアユ産卵場の減少、スイゼンジノリの流失、アユやコイの養殖施設の破損など大きな被害が出ました。

このため、県では資源の維持・回復に向けて、アユ受精卵やスイゼンジノリ種苗の放流、被災した養殖施設の復旧経費の助成を行いました。平成30年度は、豪雨後の川底の状況調査や、アユ産卵場造成の候補地で造成効果の調査等を行い、豪雨で変化した川底に対応したアユ産卵場造成によるアユの資源づくりに取り組んでいきます。

また、今回の豪雨では、内水面研究所も大きな被害を受けました。現在、庁舎の改修や種苗生産・飼育施設の増強を行っており、工事終了後はアユやスイゼンジノリ等の種苗がより多く生産できるようになります。

今後とも内水面漁業が持続的に営まれるよう、漁業者の皆さんと協力して資源の維持・回復に努めていきます。



アユ受精卵放流

## 食育・地産地消セミナー 開催

3月17日に県主催の「食育・地産地消セミナー」が、豊前市の「うみてらす豊前」で開催されました。これは、地元の食材を使用した調理体験や生産者の話などを通し、県産農林水産物の魅力をより多くの方々に知っていただくためのイベントです。

当日は、約20名の親子が参加し、豊前海研究所から豊前海の漁業や魚介類についての説明を受けた後、赤ベタ（アカシタビラメ）の一夜干し作りとナマコの捌き方を体験しました。子供達は、魚やナマコを捌く際に、「ヌルヌルする〜っ」、「ナマコから水が飛び出た！」と大はしゃぎでしたが、講師となった「うみてらす豊前」の職員や漁業者の方々のわかりやすい説明と手ほどきで、上手に調理することができました。その後、参加者は、「うみてらす豊前」で新鮮な海の幸の買い物と美味しい昼食を楽しみ、帰りには完成した赤ベタの一夜干しとナマコをお土産に持ち帰り、笑顔が絶えないイベントとなりました。



赤ベタ（アカシタビラメ）を捌く様子



ナマコを捌く様子

## 研究員紹介

研究部 主任技師 はやしだ のりゆき 林田 宜之

平成28年度に、新規採用で研究部浅海増殖課に配属されて3年目になりました林田 宜之です。大学では沖縄でフエダイ科魚類の生活史を研究していました。沖縄と福岡では魚種が全く異なりますが、同じ海の魚なので、大学での知識も活かしながら仕事に励んでいます。

一番の趣味は釣りで、次がバイクです。ツーリングは山道をのんびり走って、休憩中にカップ麺を食べるのが至福の時間です。釣りの方は最近調子が悪く坊主続きで、バイクに浮気気味です。

昨年度まではアサリやハマグリ資源量調査、ナマコの成熟度調査などを担当していましたが、今年度からは、投石の効果調査や水産多面的機能発揮対策事業の藻場調査、カキの養殖指導の担当になりました。業務の内容は変わりましたが、仕事の幅を広げられるよう、これからも地道にがんばっていきたいと思います。



## 普及だより

### 「糸島産ふともずく」がフード・アクション・ニッポンアワード2017で受賞10産品に選定

糸島漁協芥屋支所では、センターが開発した養殖技術を用いて、平成 20 年度からフトモズクの養殖を開始し、最近では、生産したフトモズクを「糸島産ふともずく」として、直売所などで販売しています。

「糸島産ふともずく」は昨年 10 月、農林水産省主催の「フード・アクション・ニッポンアワード 2017」で全国 1,111 産品中の受賞 10 産品に選定され、特典としてローソンでの販売が決まりました。これを受けて糸島漁協、「糸島産ふともずく」の商品開発や販路開拓などに協力していた博多女子高校、ローソンによって「糸島産ふともずくを味わうネバネバスープ」と「糸島産ふともずくを味わうネバネバサラダ」の 2 商品が開発されました。これらの商品は、2月27日からの約1ヵ月間ローソンで販売され、好評でした。



ネバネバスープ



ネバネバサラダ

(写真は、糸島市企画部秘書広報課から提供)

### 有明海区研究連合会 高口 悟さん 第 23 回全国青年・女性漁業者交流大会で水産庁長官賞を受賞

3月1～2日の2日間、東京都で第23回全国青年・女性漁業者交流大会（JF 全漁連主催）が開催されました。

福岡県からは、有明海区研究連合会の高口悟さんが「有明海におけるアサリ安定生産を目指した取組ーアサリ資源の回復を契機にー」というテーマで発表を行い、水産庁長官賞を受賞しました。

発表では、アサリ資源の回復のため、稚貝発生域への保護区の設定と、稚貝の移殖放流などに取り組むとともに、保護区で漁獲サイズまで成長したアサリを漁獲量管理と共同販売を組み合わせ高値で販売することを通じて、生産者の資源管理意識が高まり、浜に活気が戻ったことを報告しました。

漁業者、有明海漁連、県が一体となり、資源を有効に活用するための取組を行ったことが評価され、今回の受賞となりました。



「水産庁長官賞」を受賞した高口氏  
(右から2人目)

# 人事異動

(平成30年4月1日付け)

## ○水産海洋技術センター

新 所 属	職 名	氏 名	旧 所 属
	理事兼所長	有江 康章	水産局
企画管理部	部 長	林 宗徳	漁業管理課
企画情報課	課 長	池浦 繁	研究部
総務課	課 長	本田 敏雄	県土整備部港湾課
	主任技能員	平尾 康文	総務部財産活用課
研究部	技能員	横坂 武志	再任用
	部 長	筑紫 康博	豊前海研究所
資源環境課	課 長	松井 繁明	研究部(浅海増殖課長)
	研究員	金澤 孝弘	漁業管理課
	研究員	長本 篤	有明海研究所
資源環境課(げんかい)	船 長	田畑 正和	有明海研究所(ありあけ)
	技術主査	堀 憲一	豊前海研究所(ぶぜん)
資源環境課(つくし)	技術主査	高村 峰登	再任用
浅海増殖課	課 長	吉岡 武志	水産振興課
	参事補佐	小谷 正幸	有明海研究所
	技 師	飯田 倫子	新規採用
応用技術課	課 長	秋本 恒基	研究部(資源環境課長)

## ○有明海研究所

新 所 属	職 名	氏 名	旧 所 属
のり養殖課	研究員	内藤 剛	漁業管理課
	主任技能員	湯村 一也	南筑後県土整備事務所
のり養殖課(ありあけ)	船 長	奥村 将大	漁業管理課(しんぶう)
資源増殖課	主任技師	山田 京平	水産振興課

## ○豊前海研究所

新 所 属	職 名	氏 名	旧 所 属
	所 長	上妻 智行	水産振興課
漁業資源課(ぶぜん)	技術主査	荒木 樹良	水産海洋技術センター(げんかい)
浅海増殖課	技 師	田中 慎也	新規採用

## ○内水面研究所

新 所 属	職 名	氏 名	旧 所 属
内水面研究所	研究員	中本 崇	水産海洋技術センター

## △転出

新 所 属	職 名	氏 名	旧 所 属
農林水産部水産局	局 長	石田 祐幸	水産海洋技術センター
漁業管理課(漁調委事務局)	事務局長	大村 浩一	水産海洋技術センター
漁業管理課	参事補佐	佐藤 利幸	豊前海研究所
漁業管理課(しんぶう)	主任技師	濱田 健吾	水産海洋技術センター(つくし)
水産振興課	課 長	濱田 弘之	水産海洋技術センター
	専門技術指導員	深川 敦平	水産海洋技術センター
	主任技師	森 慎也	水産海洋技術センター
県土整備部	企画主査	白石 日出人	内水面研究所

## □退職(平成30年3月31日付け)

旧 所 属	職 名	氏 名
水産海洋技術センター	総務課長	嶋中 輝明
	応用技術課長	内田 秀和
	参事補佐	濱田 豊市
	げんかい船長	高村 峰登
有明海研究所(再任用)	技能員	荒巻 明満

<編集発行> 福岡県水産海洋技術センター企画管理部企画情報課

〒819-0165 福岡市西区今津1141番地1

TEL 092-806-5251 FAX 092-806-5223

センターホームページ <http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/>

携帯電話対応 <http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/mobile/>